



(縁・円・援)

兵庫えんだよい

このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

～日ごろのつながいでまちを守るためにも～

令和6年1月1日。能登半島を中心に震度7の大きな地震が起きました。29年前の阪神淡路大震災、13年前の東日本大震災。その後も次々と続く災害に、いつ、この地にも災害が来るかもと思わずにはおられません。日常でも、いざの時でも、地域の中でつながっていくために、生活支援 CO の役割はさらに重要となりそうです。今回は、一年を振り返り、新たな活動の視点を見つけるためのポイントも探ってみました。

令和5年度生活支援 CO フォローアップセミナー開催(令和6年3月11日)

「能登半島地震から見えてきたこと」～まちづくりと災害～

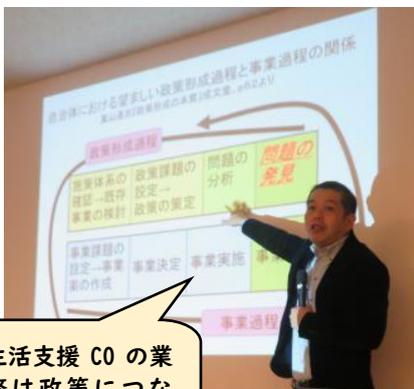


兵庫県社会福祉協議会 福本 淡路市社会福祉協議会 岩城氏



災害時、つながりをどう作っていくか、外からの力も必要なこと。兵庫で発生したときに、外の力を借りる。最後には、その地元で歩いていく。しかし、その力を借りながら、SOSを出していい。

今回の災害は「分断」が大きなテーマです。道路や通信網などアクセスの分断、長引くライフラインの分断が、これまで暮らしていた「関係性豊かな地域から関係性の薄い遠方の地域への避難」を引き起こしました。すなわち「関係性の分断」が起きています。復興とはまちづくりであり、まちづくりとは関係性豊かな地域です。これは生活支援 CO も同じ。日々の地道な努力は災害時においても大きな力を発揮すると感じています。



生活支援 CO の業務は政策につながっている

講師：兵庫県立大学 竹端 寛氏

強力な助っ人、ネットワーク企画会議委員



セミナー演習で行ったように、一つひとつの実践にどれだけ手間がかかっているか情報を共有し、プロセスを伝えることで市町担当者等にも少しわかってもらえるのではないかと。

【発行元】(令和6年4月18日発行)
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号
兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部
TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297
E-Mail:seikatsushien@hyogo-wel.or.jp (担当：富永・永坂)

今年も語る！ゼロ層(県行政・県社協)

「この一年を振り返ってみよう」

国でも生活支援 CO の活躍を期待している。県としても市町担当者と CO が連携しやすいように考えている。今年度、保健師として初めての福祉分野で戸惑いもあったが、CO が地域と人をつなぎ地域を作る重要な役割を持つことは理解している。



2年目になって、CO が抑圧から解放されることに自分は何ができるか考えてきた。実践現場に合わせたセミナーの実施、えんナビ、えん学び塾等、誰も置いていかない研修を目指した。コミュニティワーカーの育成、地域福祉の理解を専門職に広げること等、課題はまだある。

講師：兵庫県立大学 環境人間学部 准教授 竹端 寛 氏
 登壇者：兵庫県高齢政策課 地域包括ケア推進班 主査 滝本 陽子氏
 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部長 福本 良忠

POINT

滝本さんが保健師としてこの業務についている意味がある。CO と保健師業務は地域診断・地域を知るという共通点がある。CO が行っていることを保健師が聞き取り地域診断のベースにできるのではないか。保健師と CO はまだまだつながっていない。CO からは、地域の課題や要望を地域診断と一緒にですと保健師にアプローチしてはどうか。



POINT

なぜ、CO のことがわからない？

- 聞いている量が少ない。足りない。イメージがつかない。
- CO が介護予防とどう結びついているか市町担当者に伝えていくことも大事ではないか。

一緒に相談。
一緒に動く



親近感がわいた！

ゼロ層もはじめは同じ道を通るんだ！

参加者もおおいに語る！

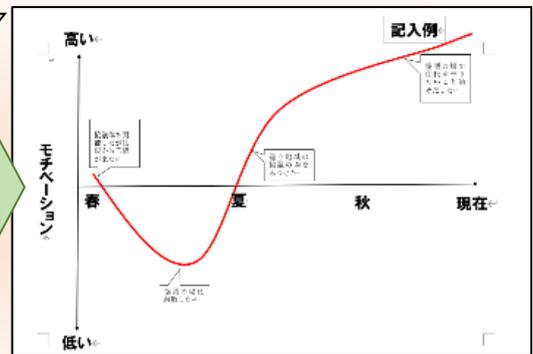
「一年間の活動を振り返ってみて」

こんな演習をしました【その1】

振り返りをモチベーショングラフにしてみる

この一年の活動を振り返ってみましょう

	春	夏	秋	現在
良い変化				
心配事 もやもや				



5つの視点、意識することがなかった。



振り返りの機会になった

振り返りと今年度の計画に活かしてください！

こんな演習をしました 【その2】(その1で行った振り返りをさらに分析する)

目標(夢)を語った・こうなったらいいな	知ったこと	伝えたこと	話し合ったこと	力合わせしたこと
(タイトル)				

こんな報告がありました！

- ① 通いの場リストをつくろう
- ② 配属先を超えた生活支援 CO の連携
- ③ 子どもの居場所づくり
- ④ コミュニティカフェを作りたい住民の願いをかなえる

岩城氏からの振り返り方のヒント

これだけでなく「知りたいこと」「伝えたいこと」「話し合いたいこと」「力合わせしたいこと」もう一つ「どっちでもいいよ」を足してみてください。

POINT



生活支援 CO「えん巡りの旅」:こんなことありました！



各市町の活動を教えてください。



豊岡市の「買い物支援ネットワーク」を紹介します。



「企業との力合わせ！買い物支援ネットワーク！」(豊岡市社協)

豊岡市では、地域の過疎化に伴い買い物が困難な人が増えています。そこで生活支援 CO は、行政の1層 CO とともに、市内の企業に声をかけ、「買い物支援ネットワーク会議」を開催しています。参加企業も徐々に増え、今では10か所が参画しています。実際に移動販売や配達等を行っている事業所だけでなく、今後、買い物支援に参画しようという企業も含め、いかに地域住民が住み慣れた地域でいつまでも安心して住み続けられるかと、深い意見が飛び交っています。買い物支援マップや SNS の利用等の報告や、店舗が困っている認知症や万引き等の相談もふくめ、活発な意見交換が繰り広げられていました。そして、会議が終わってからが2層 CO の本領発揮。あっちこっちで立ち話会議が行われていました。

《お知らせ》

○生活支援体制整備事業

市町担当者・管理者会議

日時：6月4日(火)

13:30~16:30

場所：兵庫県福祉センター

○生活支援コーディネーター基礎セミナー

日時：1日目 7月1日(月)

10:30~16:30

2日目 7月2日(火)

10:30~16:30

場所：兵庫県福祉センター

【編集後記】

令和5年度のまとめとなるフォローアップセミナーはゼロ層(県行政・県社協)の振り返りも含め、生活支援 CO (1層・2層)の振り返りを行いました。そうすると、共通点がいくつも見えてきました。業務で見ているとわからなかったことが振り返ると見えてくる。振り返りは「もう一つの現場」と言われます。もう一つの現場には、貴重なヒントが隠れています。このように、場を共有して対話の機会を持つ。そして、話し合いながら、力を合わせて、夢を語っていく。地域づくりと同じプロセスではないかと感じました。

今回、ご参加できなかった皆さまもぜひ、振り返りを行ってみてください。